平成２８年度全国高等学校総合体育大会登山大会
第　６０回　全　国　高　等　学　校　登　山　大　会

予　報　第　１　号

2016 情熱疾走 中国総体

美しく咲け 君の笑顔と努力の華

主　　催	(公財)全国高等学校体育連盟　(公社)日本山岳協会　岡山県 岡山県教育委員会　真庭市　新庄村 真庭市教育委員会　新庄村教育委員会
共　　催	読売新聞社
後　　援	スポーツ庁　(公財)日本体育協会　日本放送協会 (公財)岡山県体育協会　真庭市体育協会
主　　管	(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部 岡山県高等学校体育連盟　岡山県山岳連盟
特別協賛	大塚製薬
協　　賛	ＪＴＢ　マイナビ　カンコー学生服

目　　次

１　第６０回登山大会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　日程及びコース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３　登山大会コース位置図及び概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４　岡山の山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
５　蒜山・新庄地域の歴史と文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
６　大会山域の主な地名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
７　コース案内
　　毛無山コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　　上蒜山コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
　　下蒜山コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
８　各隊の行動予定表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
９　岡山の気象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
10　真庭の山の地形と地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
11　毛無山・蒜山の動植物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
12　連絡事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８

１　第６０回登山大会について

登山隊長　栗原輝之（岡山県立水島工業高等学校）

「2016 情熱疾走 中国総体」第６０回全国高等学校登山大会は「美しく咲け 君の笑顔と努力の華」をスローガンに「晴れの国おかやま」の岡山県真庭市と新庄村で開催されます。いずれも岡山県と鳥取県の県境の山域となります。

開閉会式は「のれんのある風景，古い町並みが残る」勝山，幕営地は「西の軽井沢」と呼ばれる蒜山高原，宿舎は露天風呂番付で「西の横綱」にランクされる湯原温泉を案配しました。

大会競技会場の蒜山山域は昭和３８年（１９６３）に大山隠岐国立公園に編入されました。岡山県と鳥取県の県境を東西に西から上蒜山，中蒜山，下蒜山と三座が横たわり，蒜山三座と呼ばれています。その裾野に広がる蒜山高原には，夏はキャンプ場，冬はスキー場など多くの観光・レジャー施設が整備され，ジャージー牛の放牧も見られ，90ha の牧草地は日に映えて美しく，四季を問わず多くの観光客が訪れています。

一方，朝鍋鷲ヶ山・毛無山山域は，岡山県内最大規模のブナ林と岡山県版レッドデータブック選定種も多く生育・生息する極めて豊かな動植物が特徴です。この地域一帯は平成１４年（２００２）大山隠岐国立公園に編入されました。なかでも毛無山の南斜面は自然環境を厳正に保全することを求められる「特別保護地区」（環境省）に指定されました。また，毛無山山麓の田浪キャンプ場付近には，足を踏み入れると木々や土が香り，森に息づく命や力を感じることができる森林セラピーロードの「ゆりかごの小径」が整備されています。

今大会の３つのコースは，男女同日に同一コースで時間差をおいてスタートをするように計画しています。いずれもメインザックを担いでのチーム行動となります。水分補給や体温調節等の熱中症対策は十分に準備しておくと同時にしっかりと体力をつけておいてください。

毛無山コースは大会２日目（８月７日）に登り，朝鍋鷲ヶ山や金ヶ谷山への急登は平成１７年「晴れの国おかやま国体」山岳競技縦走種目でも使用されました。朝鍋鷲ヶ山から毛無山縦走路では樹齢１００年を越えるブナの天然林も多く見られ，このブナ林の葉が天然の日傘・雨傘になってくれます。また，毛無山山頂に到着すれば，名前の由来にも納得させられるでしょう。３６０度のパノラマが広がり，一気に今までの疲れが吹き飛ぶに違いありません。伯耆大山や青い日本海，隠岐の黒い島影が見えることもあります。

上蒜山コースは大会３日目（８月８日）に登り，昭和６０年に「日本名水百選」（環境省）に認定された「塩釜冷泉」から，クロボクで滑りやすい急登標高差約６００ｍを一気に中蒜山まで上ります。上蒜山分岐からは，蒜山高原を目指しての槍のように伸びた稜線の下りです。天気が良ければ大山南壁を遠望でき，また，百合原牧場では蒜山ジャージー牛の放牧を目にすることができます。

下蒜山コースは４日目（８月９日）に登り，スタート地点は幕営地である蒜山高原スポーツ公園となります。下蒜山は三座の中で標高こそ一番低いですが，五合目を越えると，緑の絨毯が敷き詰められたような素晴らしいササ原の景色が広がります。このコースを完登すれば蒜山三座縦走コンプリートです！！

選手・監督のみなさんをお迎えするために，地元高校生をはじめ，岡山県，真庭市・新庄村実行委員会，岡山県山岳連盟，高体連登山専門部が一体となって準備を進めてきました。

岡山で一番涼しい山域でみなさんをお迎えしますが，されど「晴れの国おかやま」。「もんげーあちいでー」を覚悟しておいてくださいね。

２　日程及びコース

・日　程

平成２８年 ８月　４日（木）　諸会議（全国常任委員会他）
８月　５日（金）　受付・諸会議（全国専門委員長会議, 監督リーダー会議他）
８月　６日（土）　開会式・入山（幕営）
８月　７日（日）　登山行動（幕営）
８月　８日（月）　登山行動（幕営）
８月　９日（火）　登山行動・下山（宿舎）・諸会議
８月１０日（水）　閉会式

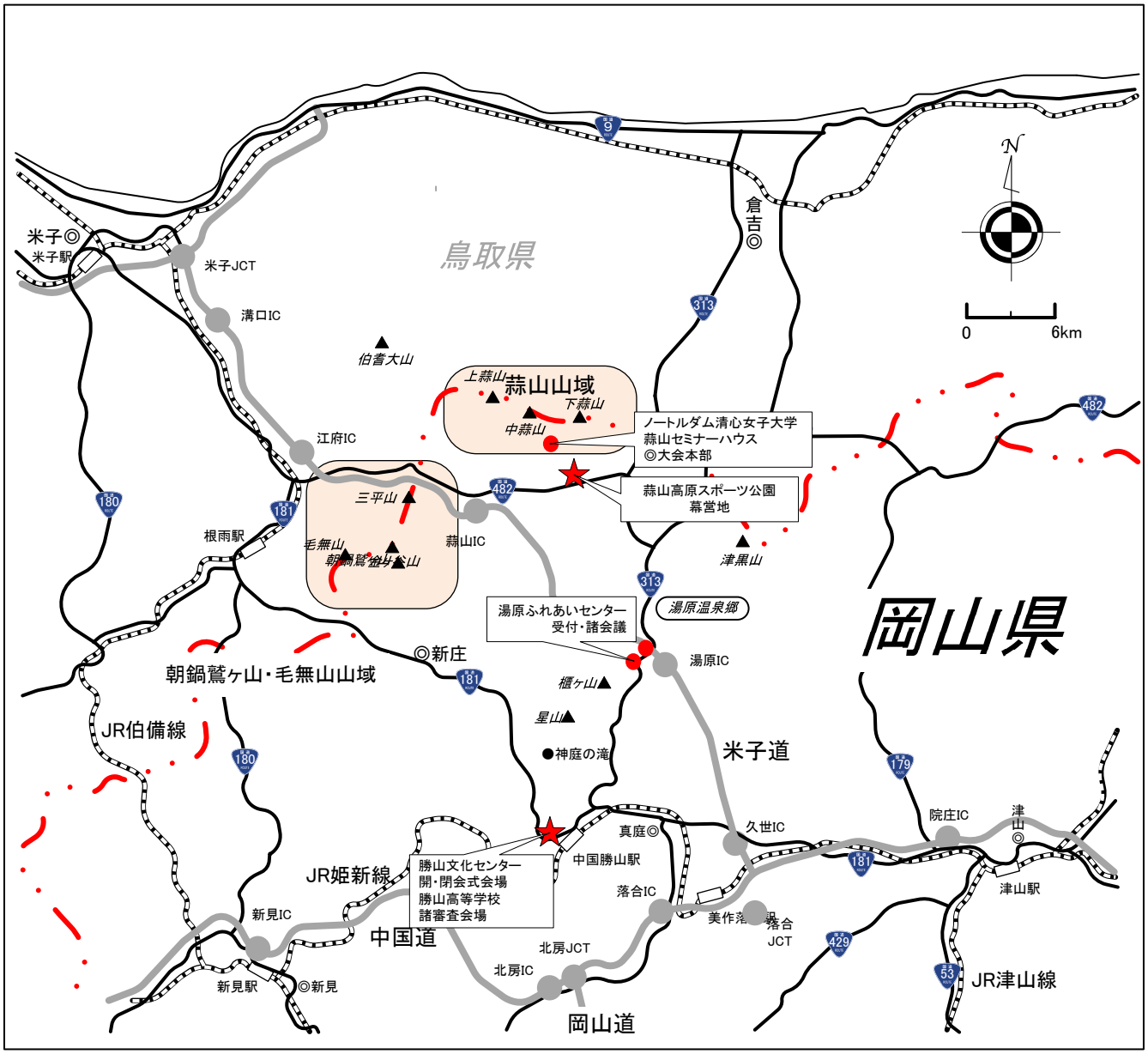
・コース

		A隊（団体男子）	B隊（団体女子）
大会１日目	開会式	勝　山　文　化　セ　ン　タ　ー	
	審　査	天気図:勝山文化センター，自然観察・気象・救急テスト:勝山高等学校	
	移　動	開会式会場＝幕営地	
	幕営地	蒜山高原スポーツ公園	蒜山高原スポーツ公園
大会２日目	毛無山コース	幕営地＝林道川上２号線入口～ 朝鍋鷲ヶ山登山口スタート広場－ 朝鍋山登山口－朝鍋鷲ヶ山－ 金ヶ谷山－金ヶ谷コース・山の駅分岐－ 白馬山－毛無山－毛無山山の家＝幕営地	幕営地＝林道川上２号線入口～ 朝鍋鷲ヶ山登山口スタート広場－ 朝鍋山登山口－朝鍋鷲ヶ山－ 金ヶ谷山－金ヶ谷コース・山の駅分岐－ 白馬山－毛無山－毛無山山の家＝幕営地
	幕営地	蒜山高原スポーツ公園	蒜山高原スポーツ公園
大会３日目	上蒜山コース	幕営地＝道の駅蒜山高原～ 八束自然牧場公園－中蒜山登山口－ ９合目分岐－中蒜山－ 上蒜山分岐－百合原牧場－ 蒜山高原キャンプ場＝幕営地	幕営地＝道の駅蒜山高原～ 八束自然牧場公園－中蒜山登山口－ ９合目分岐－中蒜山－ 上蒜山分岐－百合原牧場－ 蒜山高原キャンプ場＝幕営地
	幕営地	蒜山高原スポーツ公園	蒜山高原スポーツ公園
大会４日目	下蒜山コース	幕営地－下蒜山登山口－ 下蒜山－９合目分岐－ 中蒜山登山口＝宿舎	幕営地－下蒜山登山口－ 下蒜山－９合目分岐－ 中蒜山登山口＝宿舎
	宿泊地	湯原温泉	
大会５日目	移　動	宿舎＝閉会式会場	
	閉会式	勝　山　文　化　セ　ン　タ　ー	

凡例　　＝バス輸送　～徒歩移動　－チーム行動（メイン）

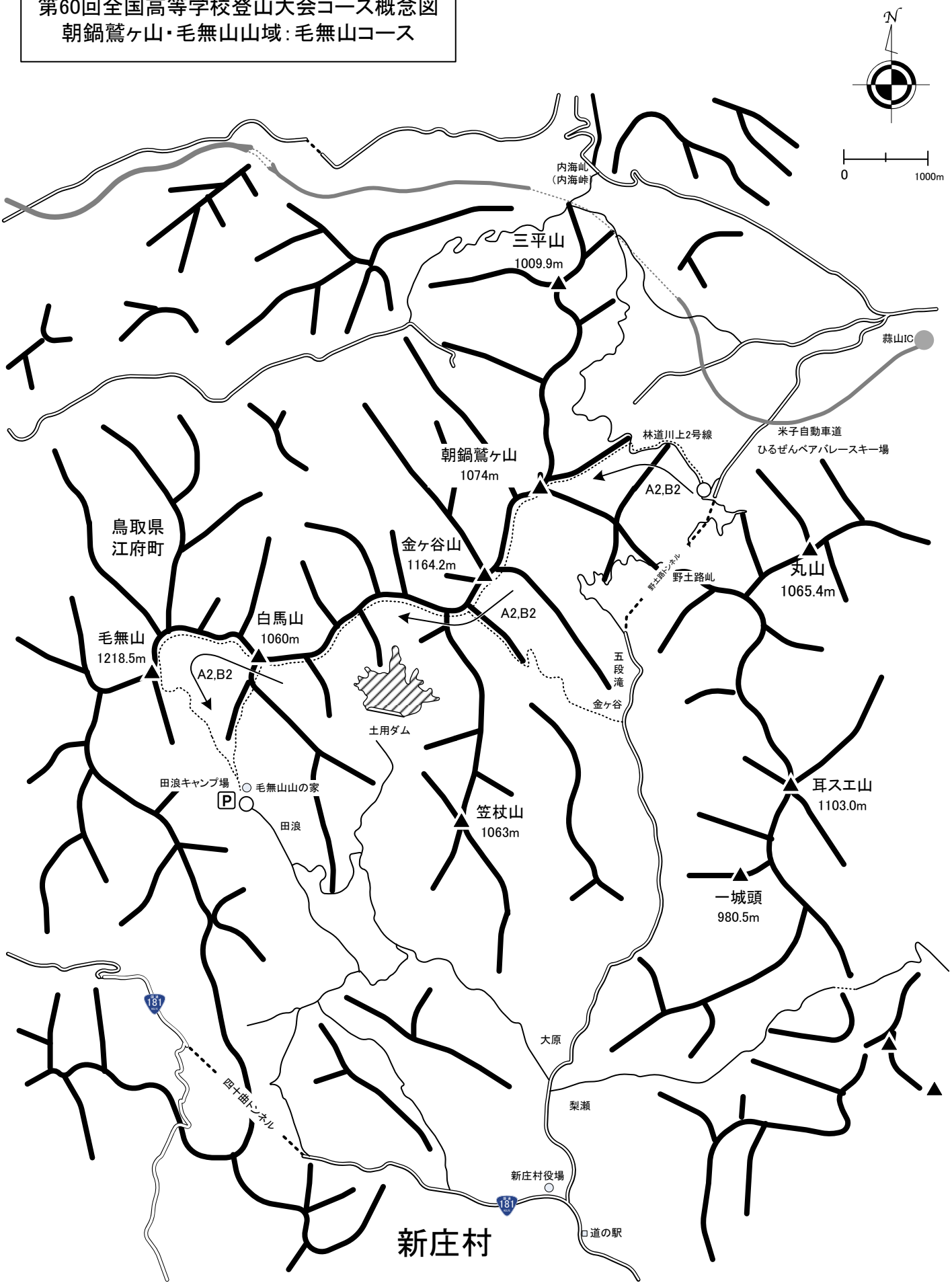
3　登山大会コース位置図及び概念図

大会コース位置図

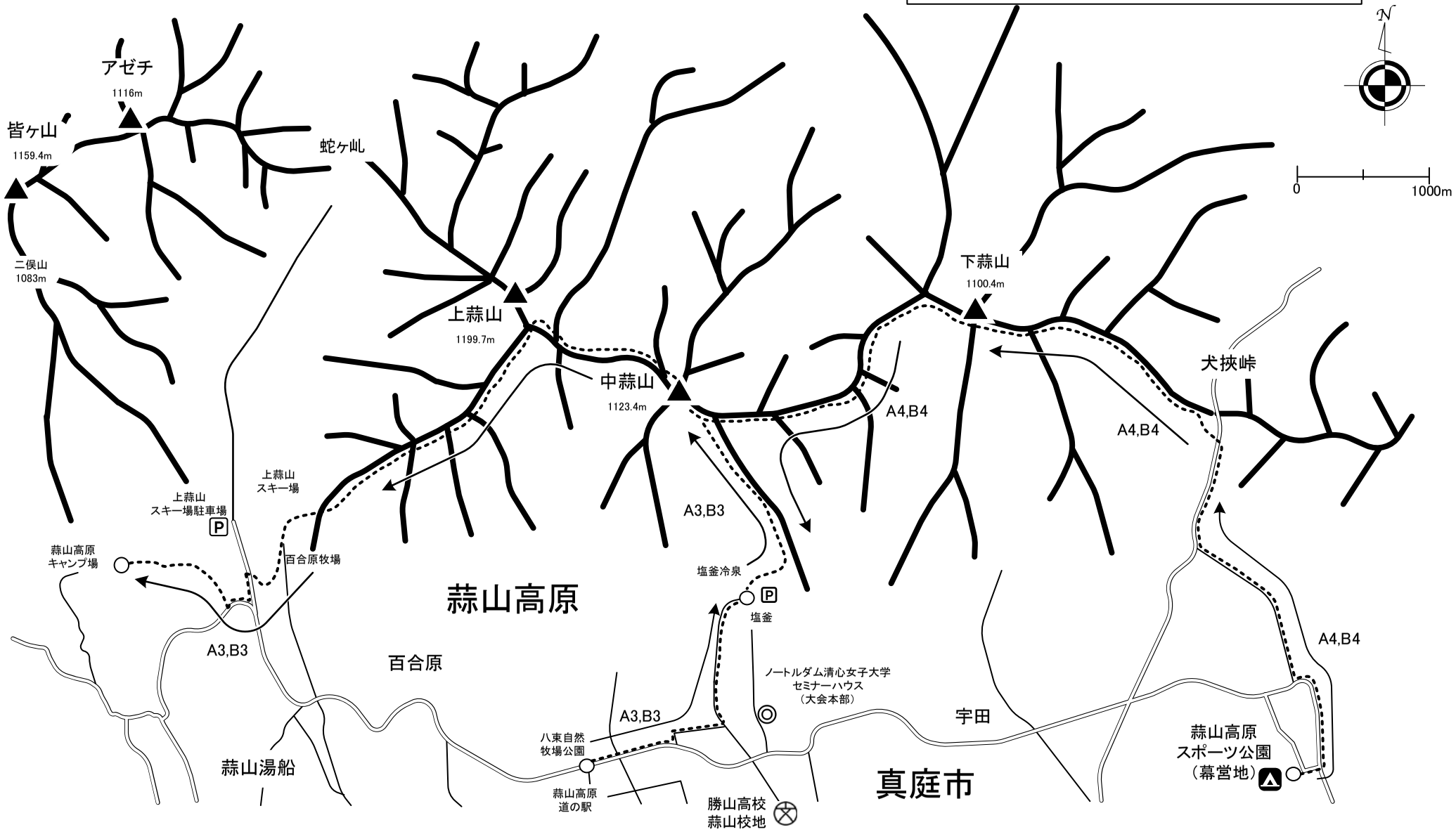


○開・閉会式会場　勝山文化センター
　真庭市勝山319　0867-44-2011
　（中国勝山駅から徒歩5分,中国自動車道 落合ICから約12km車20分）
○諸審査会場　勝山文化センター/勝山高等学校
　真庭市勝山319　0867-44-2011/真庭市勝山481　0867-44-2628
○宿泊地　湯原温泉郷
　真庭市湯原温泉
　（米子自動車道　湯原ICから約5km車10分）
○受付・諸会議会場　湯原ふれあいセンター
　真庭市豊栄1515　湯原支局総務振興課　0867-62-2011
　（湯原温泉郷から徒歩10～15分）
○幕営地　蒜山高原スポーツ公園
　真庭市蒜山上長田2300-1　0867-66-2511
　（米子自動車道　蒜山ICから約8Km車15分,湯原ICから約18km車25分）
◎大会本部　ノートルダム清心女子大学蒜山セミナーハウス
　真庭市蒜山下福田27　0867-66-3950
　（米子自動車道　蒜山ICから約10Km車25分,湯原ICから約24km車35分）

第60回全国高等学校登山大会コース概念図
朝鍋鷲ヶ山・毛無山山域：毛無山コース



第60回全国高等学校登山大会コース概念図
蒜山山域：上蒜山コース，下蒜山コース



４　岡山の山

総務委員長　黒瀬大亮（岡山県立林野高等学校）

「晴れの国おかやま」へようこそ。

岡山県は中国地方の東端に位置し，北に鳥取県，北西に島根県，西に広島県，南に瀬戸内海をはさんで香川県，そして東側には兵庫県に境を接する，豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域である。鳥取県，島根県との境になる中国山地の山並みを源とする吉井川，旭川，高梁川の岡山三大河川が，中央部に広がる吉備高原を刻み，広大な岡山平野を経て，瀬戸内海に注ぎ込まれている。

大会山域はコース案内に詳細なものを載せているので，ここでは大会山域以外を紹介することとする。

１　櫃ヶ山・星山一帯

（１）櫃ヶ山（ひつがせん，櫃ガ山とも書く，953.4m）

「湯原富士」と呼ばれ，頂上からの展望は抜群で北に蒜山三座，その西に烏ヶ山・大山とつながる大山隠岐国立公園の核心部を眺望することができる。

櫃ヶ山・星山一帯は湯原奥津県立自然公園に指定されている。

日の谷登山口から１０分ほどで，昔，旭川に棲んでいた巨大な竜（龍）がこの滝へ登るとき頭が見えたことから名前がついたとされる「竜頭の滝」がある。

（２）星山（ほしやま，ほしがせん，1030.3m）

ピラミダスな櫃ヶ山に対比するようなゆったりとした山の容姿がすばらしい一等三角点の山である。星山東登山口付近に植樹や下刈りなどの森づくりに直接参加できるよう整備されている「勝山美しい森」があり，バンガロー，ビジターセンター，テントサイトなどの宿泊施設もある。周囲を山に囲まれ，都会では見ることが出来ないほど鮮やかに光り輝く星たちが待っている。頂上からは櫃ヶ山同様中国山地中央部の山々がほとんど見渡せ，３６０度の展望が楽しめる。

星山に源を持つ神庭川が落差約110mを爆音とともに落ちる神庭の滝は昭和５年７月に国の「名勝」に指定された。年間約１５万人の入園者があり，日本百景，日本の滝百選，湯原奥津県立自然公園の特別地域に選ばれている。

また，滝周辺に約230匹の野性ザルが生息し，昭和３２年から大阪大学によるニホンザルの比較行動の研究が行われている。

２　泉山一帯

（１）泉山（いずみやま，いずみがせん；1208.9m）

泉山は津山市から１７９号線を北上した旧鏡野町と旧奥津町（現在は合併して鏡野町）の境にあり，湯原奥津県立自然公園内にそびえ立つ雄大な山である。旧奥津町側からも旧鏡野町からも数本の登山道が整備されており，泉山頂上からは３６０度の素晴らしい景観を楽しむことができるため登山者も多い。一等三角点のある山頂からは，北に花知ヶ仙，角ヶ仙，東に那岐山をはじめとする那岐連峰，西に津黒山から蒜山，伯耆大山，南に四国までもが望むことができる。

ふもとの奥津温泉は，湯原，湯郷温泉と合わせ古くから「美作三湯」のひとつに数えられ，岡山を代表する名湯として知られている。ここには「足踏み洗濯」と呼ばれる奇習がある。奥津橋のたもとの露天風呂であねさんかぶりに，揃いのカスリ，赤い腰巻きに赤ダスキというスタイルで，立って足踏みしながら洗濯する。汚れがよく落ちることから，古くからこの方法が伝わっているが，山峡ゆえ，熊や狼が多いため危害を恐れ，立って見張りをしながら洗っていたのが今に至っている。

３　那岐山一帯

那岐山・滝山・広戸仙は津山市街から遠望でき，とくに冬の晴れ間の雪を頂いたこれら連山は非常に美しい容姿を我々に見せてくれる。また，那岐山は氷ノ山・後山・那岐山国定公園の南西部に位置し，登山道も良く整備されており，山頂からの展望も良いため，登山者の多い山である。

この地域を横仙地方と呼ぶ。古くから猛威を振るう顕著な局地風である「広戸風」を防ぐため各農家は屋敷林（コセという）をもっている。

伝統芸能としての農村歌舞伎の姿を現在に伝える県の重要無形文化財に指定された「横仙歌舞伎」がある。

（１）那岐山（なぎさん，なぎのせん，なぎせん，1240.3m）

標高1240.3mは三等三角点のあるピークで，この山塊の山頂は三角点から北東に見えるピークで標高は1255mである。山頂からは東に岡山県の最高峰・後山の山塊，南には瀬戸内海の島々，西には大山，北には日本海と３６０度のすばらしい展望が楽しめる。

山名については，昔，作東一の高峰・後山と背比べをして負け，泣いたのでナキノセンといったのがナギノセンになったという民話がある。奈義町役場から北に１５分ほど行った古社・諾神社にイザナギノミコトが祀ってあることから付いたという説もある。

岡山県奈義町と鳥取県智頭町との境に位置し，山陽・山陰の分水嶺をなす。

（２）滝山（たきやま，1196.5m）

標高1196.5mで，一等三角点がある。安山岩からなる大起伏山地にある。奈義町と旧勝北町との境に位置する。滝山４８滝が知られているように全山に多数の滝があることから名付けられたといわれる。自然林に囲まれた山は古くから霊地として信仰されている。滝山の南麓には，滝山渓谷，雄谷・雌谷・奥之院谷，滝神社（岩屋権現）がある。

（３）広戸仙（ひろどせん，1115m）

安山岩からなる大起伏山地にある。登山者の間では爪ヶ城と呼ばれることがある。南東尾根にある甲山が矢櫃城の「詰の丸」として機能したことに由来する。

４　後山一帯

（１）後山（うしろやま，1344.4m）

後山は中国山地の東端に位置し，岡山県の東北部，兵庫県との境界にある。氷ノ山・後山・那岐山国定公園に属し，岡山県の最高峰である。

地元では，後山を行者山とも呼んでいる。山の中腹には，役行者（役小角）が奈良時代に開基したと伝えられている行場がある。現在でも山岳信仰の聖地として，奈良県の大峰山と同様に一定地域が女人禁制となっている。

（２）舟木山（ふなきやま，ふねぎさん，1334m）

標高1334m，岡山県第２位の高峰である。

（３）駒の尾山（こまのおさん，1280.5m）

標高1280.5m，岡山県第３位の高峰である。駒の尾山は，後山・舟木山・ダルガ峰とともに，尾根筋を通る中国自然歩道の一部をなしている。頂上からの眺めはすばらしく，東に後山，南東に日名倉山，南に吉備高原，西に那岐山を望むことが出来る。

（４）若杉天然林

ダルガ峰から北に伸びる尾根に「若杉天然林（若杉原生林）」がある。中国山地の代表的な自然の宝庫で，面積約83ha，氷ノ山後山那岐山国定公園の特別保護地区となっている。吉井川の支流の１つ吉野川の源流である。生い茂る天然樹林の中には，樹齢200年以上のブナやカエデ，ミズナラなどの巨木があり，オオルリやヨタカ，ヤマネなど希少な動物の生息地となっている。

（５）日名倉山（ひなくらさん，1047.1m）

標高1047.1mで，一等三角点があり，美作富士とも呼ばれる。頂上を一ノ丸と呼び，二ノ丸・三ノ丸の峰がある。吉川英治「宮本武蔵」の舞台としても有名である。

５　蒜山・新庄地域の歴史と文化

岡山県高体連登山専門部元委員長
岡山県山岳連盟前理事長　山本　廣康

１　蒜山・新庄の史跡にみる歴史

（１）蒜山地域

四ツ塚古墳群は，下蒜山裾野の蒜山上長田・道目木に１６基の古墳が散在している。中に大型の４基が並列しているため，古くから“四ツ塚”と称され，地名にもなっている。このうち西端の一号墳は直径 24m，高さ約 3.4m の円墳で横穴・石室が完全に残されている。中に副葬品として祝部式土器・土師器・刀・鉄矢じり・馬具類・銅器・金環・勾玉など多数残されている。古墳時代後期の前葉に属するものといわれる。また，円筒・壺型や鶏・人物・家型の象形埴輪も多く出土され，中にはベンガラで着色されているものもある。蒜山高原にはこのほか西茅部や上徳山などに２０か所百数十基の古墳があり土器･石器の出土品がある。埴輪の多くは豪族が作っていたもので縄文式石器・土器などから見て，古墳時代より更に数千年以前に蒜山原は開けていたとされる。

蒜山地方には，旧大山街道を示す古塔や道標が宿場の家並と共に往時を残している。

史跡と言うことではないが，歴史の踏み跡として百姓一揆の犠牲者を残す祠がある。享保十一年（１７２６年）に起こった山中騒動である。時の津山藩主が幼少で死去し十万石から五万石に減封されたため，その年の年貢納期の繰り上げの上 40％の増納を課すなどの圧政が重なった。そこで旭川上流の山中地方の農民が次々と蜂起して大騒動となった。奥山中の蒜山からも多数が参加して２２人が死罪に処せられた。寒冷地の農業一筋の住民にとっては大変な悲劇であった。

蛇ヶ乢から上蒜山への登り口，皆ヶ山の登山路わき，鳥取大学演習林，三平山の稜線等には，土塁といわれる軍馬の土塀がある。高さ 1.5m から 2m ほどの土の高まりの堤である。この土塀が築かれる以前，辺りは蒜山地方の草刈り場だったが，明治３１年（１８９８年）陸軍は下蒜山の東麓から三平山南まで 2300ha を買収。毎年１５０頭から２００頭の雄馬を東北地方から送ってきて，土塀の内側で放し飼いにした。馬は五歳になると各地に送り出し，また幼馬を育てる，大正６年（１９１７年）まで続けられた軍馬育成場であった。

（２）新庄村

竪穴住居跡があり，縄文時代に，この地に初めて人が住んだ形跡がある。広戸から見つかった土器によって知られる。狩猟・木の実山野草採取の小集団の生活だったのであろう。

弥生式土器，石包丁の出土があり，弥生時代には，田井・田中地域では稲作が行われ，食糧の確保がなされ，入母屋造りの住居の中には炉を切って定住がはじまり，家族が構成され共同生活の村が形作られていったことがうかがえる。

古墳時代を迎え，小吹の丘には数々の円墳がある。４世紀から７世紀にわたって続いたものと思われ，栽培も米に加えて稗・大豆・小豆など，桃や栗なども食していて，祭りも執り行われて，衣服や装身具も整い，男女の区別や身分の上下もはっきりしてきたものと思われる。出雲文化と吉備文化との交流地点でもあり，その役目を担う点で砂鉄と燃料の調達が容易な地として鉄製品が作られ，たたら遺跡がある。それに勢力をなした豪族の墓が古墳なのであろう。埴輪よりも古い大型の土器「特殊器台」の破片も出土されている。

新庄盆地の北側に紡錘形の美しい山，笠杖山（1063m）がある。新庄富士と呼び町並からせせらぎの彼方にそびえる姿は地域の象徴である。ただ他地域から来た人はそれを毛無山だと合点して帰る向きも少なくない。「作陽誌」によると応神天皇が吉備の国を巡幸された際にこの笠杖山を狩り場

として指定されて以来今に至ってあがめられる山である。

神の鎮座した所（かんなび）を護る磐城を巡らした神籠石の立ち並ぶ東部にある山が宮座山（800m）である。古来祭りごと（政）の行われたところで，池田弥三郎がこの地を訪れて「出雲路の神の憑りしろおろかみて心清々し降り来にけり」と詠われたとある。

旧出雲街道は新庄宿から野呂谷川をさかのぼって手火山の南の嵐ヶ此を越えて行く。後鳥羽上皇は，隠岐の島へ遷幸になった承久三年（１２２１年），美作と伯耆の境である中山に差し掛かる時，その細道を尋ねられて「みやこ人たれ踏みそめて通ひけむ向かひの道の懐かしきかな」と詠われたとある。その時に使われた箸を立てられて，それが大きくなったのが「しだれ栗」だとの伝説がある。また，それより１００年後，後醍醐天皇も隠岐へ遷幸になり，元弘二年（１３３２年）ここを通られて，「伝え聞く昔語りそうかりけりそのえふりぬるみか月の森」と詠まれたという。

戦国時代になるとこの地も周辺からの勢力争いに巻き込まれ，手火山の頂上にあった浦上城や当時としては珍しい平城の「沢の城」等尼子・赤松・浦上が入り乱れ，やがては毛利が勢力を張ったかと思うと松平が切り絵図で領土を示すなどと争乱は絶えまなかった。

農民の生活は苦しくなる一方で，止むを得ず口べらしや間引きによって糊口をしのぎ，地蔵様を建て，五輪塔を建て，宝篋印塔を建てて，神仏を頼みとした。

江戸時代になって，参勤交代の制ができて，松江藩大名雲州侯本陣の宿場として，脇本陣も建て旅籠や茶店が軒を連ね活況を呈した。

日露戦争の戦勝記念として村議会が明治３８年（１９０５年）提唱し翌年植樹して，厚い世話を続けて，現在もなお桜の名所として爛漫の花を咲かせているのが「がいせん桜」である。

２　蒜山・新庄の生活

蒜山の産業は言うまでもなく農業が第一である。大型機械の導入により圃場整備と組織化が進んで，専業に営む者は少なくなった。

大山参りや大山博労座へ通う牛馬や家畜商で賑わう郷原と延助は宿場の町並を形作る。郷原は木地師の村でもあり漆器の生産が明治には盛んであった。大火もあったりして衰退していったが近年郷原漆器として復活している。また，蒜山中福田を中心に“山中キザミ”と言われた葉タバコの生産も盛んであった。第二次世界大戦後開拓事業によって蒜山高原線を中心に原野が開発され「蒜山ダイコン」の栽培が功を奏し，京阪神市場に向けて出荷が盛況となった。

一方軍馬の放牧生産地であった広大な草地は，オーストラリア・ニュージーランドからジャージー乳牛が輸入されて酪農が開始され脂肪分の濃い牛乳と乳製品の生産が軌道に乗っている。最近では山葡萄のワイン造りも手掛けられ，ワイナリーも造られて人気を博している。

蒜山高原の地底には，珪藻土が無尽蔵にと言っていいほど埋蔵されており，その用途も多く，露天掘りによっての生産工業が継続されている。

蒜山は山の観光のメッカとして，西の軽井沢にもたとえられ，四季を通じて観光客が後を絶たない。

雄大で風光明媚なロケーション，登山，スキー，サイクリング，乗馬と温泉もあり，高原の乳製品・ジンギスカン料理に加えて近年全国Ｂ級グルメ大会で金賞に輝いた蒜山焼きそばなど，水の美味しさと共に味覚を満たすのにも追随を許さぬ喜びがある。

民俗芸能としては，福田神社を中心に盆夜一週間を踊り明かす岡山県指定の無形文化財「大宮踊り」がある。また古くから伝えられ継続されている「銭太鼓」も有名である。

昔ながらの美しい切り紙「シリゲ」や「蒲細工」に土地の伝統が残されている。

新庄村の特徴は，社会福祉の充実である。岡山県下で最初に敬老年金制度を導入した。その財源となったのは，林業の育成である。古来鉄穴流しとたたら製鉄で荒れた山地を村有林として確保し，森林育成に励んできた。見事に成長した美林は財政を潤し，福祉行政に投じられて豊かな暮らしを育んでいる。また，保護されたブナの森がもたらす清水が「ヒメノモチ」（もち米）を育て，それを核として村おこしも盛んである。

毛無山や朝鍋鷲ヶ山を中心にした行事も年数回行われ，観光資源の開発など村民挙げて取り組み，伝統と知性を重んじた人間性豊かな新庄である。

３　蒜山・新庄の交通

蒜山は近世になってから通じた陰陽連絡道大山往来の要衝である。津山方面から大山博労座を結ぶものであり，湯原藤森から鳥居峠（大山遥拝の鳥居がある）を越えて郷原・延助の宿場を通り，西の鞍部内海乢を越えて鳥取の下り蚊屋・御机経由で大山博労座へ至る道である。

伯州往来は現在の国道３１３号線の道筋に近く湯原から旭川沿いに北上し熊井乢を越えて蒜山地域に入り，道目木から北に折れて，犬挾峠越えで倉吉に至る道である。

現在の主たる道は，道目木から盆地の中央を西に走り，内海乢を越えて鳥取県江府へ通じる主要地方道県道７号線である。

蒜山三座山麓を東西に走る道が整っており，始めは軍用路であったが，開拓産業道路として利用され，今は蒜山高原線観光道路として脇にサイクリング専用道も設置されて，各所にある施設への往来が頻繁である。

蒜山上徳山から野土路乢を越え新庄へ至る道は２００５年（平成１７年），トンネルが掘られて１５分で到着する近さになった。

蒜山上福田から大山鏡ヶ成へ向けてスカイラインが通じている。

米子自動車道が蒜山盆地の南西部を走っており，蒜山ＩＣが利用できる。絶佳な眺めが楽しめる。

新庄の交通と言えば江戸時代の要衝出雲街道である。宿場の町並から北東へ，戸島の家並みが尽きる所を右に折れて，暫く行くと杉や桧の並木道が続く。上り八町下り八町の嵐ヶ乢を越えると二ッ橋の集落がある。この辺りは現在の国道１８１号線からは北に外れる。はずれに一里塚があったという茶屋集落をあとに四十曲峠を越えて伯耆の国へ至る。陰陽を結ぶ主要な連絡路であったが道行く人にはかなりな難所であったろう。旅人の詠み残した句に

　　うぐひすの老も近寄る峠かな
　　ひと曲がり足の下ゆく時雨かな

とある。

梨瀬から北へ野土路乢のトンネルを抜けると蒜山へ通じる県道である。

6　大会山域の主な地名

『毛無山コース』

・朝鍋鷲ヶ山　あさなべわしがせん
・金ヶ谷山　かながやせん，かながたにやま
　かねがたにやま
・白馬山　はくばせん，はくばさん
・毛無山　けなしがせん，けなしやま
・伯耆大山　ほうきだいせん
・蒜山三座　ひるぜんさんざ
・塩釜の冷泉　しおがまのれいせん
・野土路　のとろ
・林道川上　りんどうかわかみ
・三平山　みひらやま
・新庄村　しんじょうそん
・真庭市　まにわし
・朝鍋山　あさなべさん
・鷲ヶ山　わしがせん
・烏ヶ山　からすがせん
・弓ヶ浜　ゆみがはま
・國六林道　くにろくりんどう
・金ヶ谷　かながたに
・土用ダム　どようだむ
・俣野越　またのごし
・俣野川　またのがわ
・田浪　たなみ
・大山隠岐　だいせんおき
・六合大杉　ろくごうおおすぎ
・毛無大岩　けなしおおいわ
・癒しの小径　いやしのこみち

『上蒜山コース』

・上蒜山　かみひるぜん
・中蒜山　なかひるぜん
・八束　やつか
・塩釜　しおがま
・蒜山　ひるぜん
・日留神社　ひるがじんじゃ
・蒜宮　ひるぐう
・蒜山原　ひるぜんばら
・下蒜山　しもひるぜん
・甲ヶ山　かぶとがせん
・船上山　せんじょうさん
・蛇ヶ乢　おろがたわ
・皆ヶ山　みながせん
・百合原牧場　ゆりばらぼくじょう
・湯船川　ゆふねがわ

『下蒜山コース』

・美作街道　みまさかかいどう
・犬挟峠（犬挟峠）　いぬばさりとうげ
・雲居平　くもいだいら
・矢筈ヶ山　やはずがせん
・勝田ヶ山　かつたがせん
・フングリ乢　ふんぐりだわ
・上長田　かみながた
・大人ガ平　おおひとがなる

※ここに挙げた地名は，コース案内に言及したものに限っている。